

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年4月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770901342		
法人名	社会福祉法人 恭生会		
事業所名	グループホーム 和朗園		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護(+介護予防)		
所在地	大阪府高槻市井尻2-37-8		
自己評価作成日	平成22年4月1日	評価結果市町村受理日	平成22年8月10日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp/
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8号-102
訪問調査日	平成22年5月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「愛」と「和」の理念の基、利用者様が共同生活を送る中で、自らの役割を担うことにより、達成感や満足感を得られるよう、自信の維持援助に努める。</p> <p>総合福祉施設の一事業として運営。その運営体制の下、職員育成を重視し、サービスの質の向上につなげている。利用者様に施設内の多種多様なイベント・レクレーションに参加していただくことで、生活に楽しみごとや張り合い・活き活きとした雰囲気を持っていただく。また、日常生活の中ではグループホーム独自の取り組みにより、その人らしさを尊重した、家庭的でゆったりとした雰囲気の中で、ご利用者一人一人が役割と活躍の場を模しながら生活している。総合病院が母体であるため緊急時対応についても安心感を得ていただいていると思っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>法人理念を基に、具体的に明文化されたグループホーム独自の理念に添って利用者の歴史・人生観・人生の先輩として尊敬を尊重すると共にプライバシー保護に配慮しながら家庭的な雰囲気の中でゆとりと潤いのある生活環境を整えケアの実践に取り組んでいる。地域清掃・健康教室への参加、地域へ向けてホームでの行事風景や活動の写真などを紹介した独自の広報誌を近隣へ配布する等、地域との交流の機会を持っている。更に施設全体で行われる健康教室を利用して施設を見学の機会を持ち、夏祭り・餅つきなど行事参加の呼びかけや学校行事の受け入れなど地域との相互の交流が持てるように取り組んでいる。食事の準備は調理から配膳・後片付けまで、利用者一人ひとりの力量に合わせて職員と共に行い、役割と活躍の場を提供している。更に畑で出来た食材をメニューに取り入れたりと、月2回の外食、月1回の誕生会は利用者の希望の料理で変化を楽しむ機会を持ち活気のある日々が送れるよう取り組んでいる。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>施設としての理念があり、文書化し各所に掲示している。ミーティング時など、理念を唱和し、周知を図っている。新入職時にも説明し、浸透に努めている。</p>	<p>法人理念を基に、職員でグループホーム独自の理念を作り、実現しやすいように基本方針として利用者の歴史・人生観の尊重・人生の先輩としての尊敬・プライバシー保護・家庭的な雰囲気の中でゆとりと潤いのある生活環境の整備等、幅広く具体的な内容を明文化して、全職員で唱和し浸透を図ると共にケアの実践に取り組んでいる。</p>	<p>理念をケアの実践に活かし理念実現に向けて取り組むために、掲示・唱和だけでなく、研修や会議の中で理念を活かしたケアの実践が行えているか振り返りを行い、理念の実現に向けた取り組みを期待する。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の学習会・清掃活動にも参加、地域の清掃活動、学校行事等へ参加をしている。必要時には、協賛の形でも取り組んでいる。定期的に、広報誌の配布も行っている。</p>	<p>利用者と共に地域清掃へ参加し、地域との交流の機会を持つている。施設全体で行われる健康教室を利用して施設を見学の機会を持つと共に、地域へ向けてホームでの行事風景や活動の写真などを紹介した独自の広報誌を近隣へ配布し、グループホームへの理解を深めるために積極的な取り組みを行っている。更に夏祭り・餅つきなど行事参加の呼びかけや学校行事の受け入れなどを行い地域との相互の交流が持てるよう取り組んでいる。誕生日会や小旅行などに家族参加を呼びかけ家族との交流を持てるよう取り組んでいる。</p>		
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>受け入れてもらえる雰囲気作りが出来にくい。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族・住民・行政職員などの構成で、2ヶ月に1度の割合で開催。議事録の掲示もしている。日帰り旅行・レクレーション等を参考にさせてもらっている。</p>	<p>利用者代表・家族代表・地域住民代表（地域福祉委員・自治会）・高槻市介護保険課職員の参加の下、2ヶ月に1回実施している。出席者から意見・助言・提案を受け、サービスの向上に反映させている。今年度から利用者・家族代表者を2名から3名に増やし、幅広い意見や要望を聴取に取り組んでいる。来年度も増員を検討している。会議内容は職員に報告し、サービス向上に活用している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>定期的に市の介護相談員が来所し、助言・意見交換を行っている。計画作成者は頻回に市の担当を訪れ、情報交換に努めている。</p>	<p>市の介護相談員が定期的に来訪しホームの状況や利用者からの意見・要望などを聞き、助言や意見交換を行い市への情報提供が行われている。また、ケアマネジャーが介護保険課へ出向き、担当職員の方と情報交換やホームの現状の情報提供を行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>何度も勉強会を催し、理解に努めている。施設全体教育にも参加。防犯上の点はルールを決めている。</p>	<p>言葉の拘束も含めた身体拘束をしない方針で全職員で取り組んでいる。身体拘束防止に向けてのマニュアルを作成し、法人全体の研修への参加以外、ホーム独自でも年間計画に基づいて、言葉の拘束についての研修や勉強会を実施している。日々のケアの中で全職員で拘束が行われていないか振り返りを行い身体拘束防止への浸透を図っている。現在地域包括支援センターより拘束についての助言や指導が受けられるような取り組みを検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催、又研修に参加し、意識の向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持てるよう努めているが充分でない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている。また、疑問がある場合はその都度対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、定期的に介護相談員が来所している。運営推進会議・来園時の声かけ等により、意見や苦情などを受け入れられる雰囲気づくりに勤めている。アンケートも実施。	介護相談員の定期的な聞き取りの機会に利用者・家族の意見の把握が行われている。家族面会時、声かけを行い話しやすい雰囲気作りに配慮している。また、家族からの意見や要望がどのように対応されるのかを分かりやすく図を用いて明示し、掲示している。また、出された意見や要望の対応結果も明示し家族へ報告を行っている。出された意見は内容は記録して、職員全員で共有し運営に反映できるように取り組んでいる。意見箱の設置も行っている。	今後も細かな意見や要望を聞き逃さないような取り組みを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	毎日の申し送りや定期的カンファを通して意見が出せている。	月1回実施されているグループホームカンファレンスの中で職員より意見・要望を聴取する機会を設けている。更に日々の業務の中では、主任・リーダーが職員からの意見や要望を聴取するようにしており、把握した意見や要望は、施設長を含め検討を行い運営へ反映させるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	充分とは言えないが、より向上に向けて努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設全体の教育委員会や内・外部研修の案内を掲示し、自己啓発、資質向上の為に参加を促している。外部研修で学んだ知識の伝達研修もしている。経験・習熟度による個別研修も実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	不十分である。他の施設の見学や意見交流を増やしていきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	住み慣れた環境、を基本に不安排除に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者・家族との面談・施設見学を含め、その後も密に連絡を取ると共に、担当ケアマネとも連携をとり、不安なこと、求めていることを受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所状況や本人の能力に合わせて、他のサービスや施設への案内・提案や趣味嗜好なども勘案しながら対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の仕方や昔からの習慣、草花の名前・調理等、教えていただくことを主体にしている。外食・ウインドショッピング等、一緒に外の空気に触れていただく機会も多くしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や行事等に家族も参加をしている。又、園芸など得意とする分野での、家族主導型も取り入れている。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が馴染みある喫茶店・店などを利用し、良い関係が継続できるようにしている。	利用開始時に生活習慣など情報収集し、馴染みの場所や交流のあった人の把握に努めるとともに、利用者から聞き取れた友人との交流が継続できるように取り組んでいる。また、行きつけの美容院・喫茶店などの利用継続を家族と共に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に合わせ、座席の配慮・趣味の共有などで、関わりあえていけるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も希望がある場合、継続した相談に乗れるようにしている。また、退所後も面会に行くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自立支援を図る為に入所者の「できること、できないこと」については極力口を出さず、見守ったり職員と一緒にいるようにしている。部屋環境も、なじみ・思い出を大切に出来るよう、家族にも働き掛けている。	利用開始時のアセスメントで、利用者・家族から思いや意向の把握に努め、日々関わる中で知りえた利用者の思いや意向をカンファレンスやミーティングの中で話しあり情報を共有し支援できるように取り組んでいる。センター方式を利用し半年に1回更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	本人や家族から聞き取り、大きな環境の変化が生じないようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援を図る為に入所者の「できること、できないこと」については極力口を出さず、見守ったり職員と一緒にいるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議は、出来るだけ家族も出席できるように努め、利用者、家族等関係者と意見を出し合い、介護計画を作成している。参加困難な家族には、意見・要望などの聞き取りによることもある。	サービス担当者会議へ家族・本人に参加を依頼して利用者家族の希望や要望を聴取し、介護計画を作成している。「ケアプランチェック表」を活用し、日々計画が実施されているか確認している。最低でもモニタリングは3ヶ月に1回、変化があればその都度実施し、定期的・随時の計画の見直しを実施している。	利用者の些細な変化を見逃さないようにし現在の利用者の状況を出来る限り維持できるように予防的な関わり、ケアが実施できる計画作成を期待する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実施内容について、個別に記録し、一元的にならないよう見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じ、出来るだけ通院送迎・外出などの支援も行うように努めている。又、併設事業所との協力も仰ぎながら種々の支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ地域イベントを含め、交流・支援環境を作れるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切にし、今までのかかりつけ医を継続できるように支援している。又、併設クリニック・系列母体の病院との協力体制は確立できている。	利用者・家族の希望を聞き馴染みのかかりつけ医への受診継続ができるように支援している。緊急受診時は協力医療機関に職員が同行して情報の提供をしている。家族が受診同行する場合は、診察依頼表を受診の都度家族に渡し、医療機関に状況提供が出来るようにしている。受診後は家族より受診結果について報告を受け経過記録に記載している。歯科は必要に応じて往診を受けている。眼科・皮膚科は、月に1回の受診体制がある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	併設クリニックの看護師に医療活用や日常の健康管理について相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中の状況について、家族のみならず、入院病診連絡室と連携を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>グループホーム利用が困難、などのことを想定して、時々ご家族とも話し合っている。医療連携体制加算・見取り指針の制定のより、系列施設との体制を確立し、本人・家族の安心感も得られるようにした。</p>	<p>重度化・看取りの指針を作成し、利用開始時に利用者・家族に説明して同意を得ている。重度化した場合には同法人施設との連携により利用者・家族が不安なく生活できるように取り組んでいる。</p>	<p>他の利用者への影響などを考え段階的な利用者・家族との話し合いを行い職員と共に統一した方針で取り組まれることを期待する。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年1回以上、救急救命講習などの講習に参加。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練を実施している。利用者も参加している。グループHでの夜間想定訓練も実施。</p>	<p>年2回施設全体で防災訓練を昼夜想定で実施している。地域の消防団の方にも参加してもらい協力体制を整えている。施設全体で備蓄も整えている。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>常に入所者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。又、職員研修・誓約書による体制も敷いている。</p>	<p>プライバシー保護・個人情報保護法についてのマニュアルを整備し、年間計画に添って研修で全職員に周知徹底するよう取り組み、職員の理解を深めている。全職員で利用者一人ひとりのプライバシーや尊厳を傷つけないような言葉かけを心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	筆談、ジェスチャーを用いる事も取り入れ、本人の希望が聞けるように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースや好みを把握し、それに応じた声かけのタイミングや方法に配慮している。食事や外出の際の組み合わせの際にも、常に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院に行き易いようにしている。外出の際には、外出用の服装になるように支援している。「祭り」の時は、希望に合わせて浴衣や甚平が着られるように、ご家族と連絡を取り合っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・配膳・食器洗いも、出来る限り利用者の意見も取り入れ、一緒にして楽しんでいる。調理方法を一元化しない・自家栽培の利用などの工夫もしている。	各フロアーで調理から配膳・後片付けまで、利用者一人ひとりの力量に合わせて利用者と共に実施して、職員も利用者と共に会話を楽しみながら一緒に食べるようにしている。栄養委員会で定期的に嗜好調査を行い、利用者の希望や好みものをメニューを取り入れるようにしている。更に畑で出来た食材をメニューに取り入れたり、月2回の外食、月1回の誕生会は利用者の希望の料理で変化を楽しむ工夫もされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	管理栄養士が作成したメニューを参考に調理している。10時と3時をおやつに時間を決め、1人1人の嗜好に応じた飲み物を用意する等している。(栄養補助食品・ドリンクなども考慮)	/	/
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや促しをしている。協力医療機関の歯科よりの衛生士のアドバイスも受けるように努めている。	/	/
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要な方には、排泄パターンの把握、タイムリーな誘導を行っている。食事や水分の摂取や日中の活動に配慮している。	排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた誘導や声かけを行い自立へ向けた支援を行っている。利用者への排泄支援を行う場合、利用者の自尊心を傷つけないような言葉かけや対応に気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩・ラジオ体操・水分摂取の確保に努めている。1人1人の嗜好に応じた飲み物を用意する等している。(栄養補助食品・ドリンクなども考慮)	/	/
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間の希望、入浴剤を使う、など楽しめる工夫をしている。	利用者の希望に合わせて入浴が実施できるように支援している。拒否が強い方には、家族に協力してもらい気持ちよく入浴が安心してしてもらえるように声かけや誘導を行っている。入浴剤・菖蒲湯や柚子湯など季節で湯を楽しめるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	夜には照明を落とし、静かにす るようになっている。昼間、 自室で休むときには室温や換 気に注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や要領につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる	医師・看護師からの説明を理 解し、共有している。変更ある 場合はご家族にも伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	1人1人の希望や能力に応じて 、ドライブに行ったり、習字や 歌を歌ったり、調理等の家事・ 畑仕事など分担している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かける よう支援している	全員が、順番に外出機会を得 られるように計画。随時、散歩 やドライブに行き、畑・ベラン ダ園芸など個別支援にも心が けている。	外出の機会が多くもてるよう に買物や日帰り旅行・散歩や ドライブに利用者の希望や体 調に合わせて支援している。 畑やベランダ演芸なども取り 入れ、気分転換やストレス発 散・五感刺激の機会としても 多くの機会を持つよう取り 組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している	個々に応じて、一緒に買い物 に行き、支払いをして貰って いる。ご家族とも金銭に関 わるトラブルと金銭を使う意 味を話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の取次ぎしている。一緒に電話をかけに行っている。年賀状なども出してもらっている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンや窓の開閉に配慮している。季節毎に飾り物を飾っている。トイレの使用方法は、違和感の無い範囲で文書表示している。	窓から差し込む自然の光や風をカーテンや窓の開閉で調整し、気持ちよく過ごせる環境を整えている。共用空間の壁面は写真・作品を飾り季節感が感じられ、台所からは職員の話し声、食器の音が聞こえるなど、家庭的な雰囲気です心地よく過ごせる場所となっている。利用者の動きに配慮して机や椅子・ソファを配置し、利用者が安心して移動できるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	何ヶ所かに椅子やソファを置いており、各々好みに依って使っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳やカーペットを利用したり、なじみの家具を持ってきて貰う、飾り物をしていただく等、家族協力もお願いしている。	居室には、ベッドとクローゼットが備え付けられ畳・フローリングの選択もでき柔軟な対応が出来るようになっている。利用者が使い慣れた箆笥・座卓・鏡台などが持ち込まれ、利用者の以前の生活を思い起こせる佇まいとなっており、その人らしく居心地よく安心した生活が送れる配慮が見られる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じて踏み台を使うなどしている。水洗の使い方を書い貼っている。入浴時の洗剤に「頭」「身体」等表示している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
V アウトカム項目					
56		職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○		①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○		①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○		①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
64		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○		①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない	
65		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○		①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない	
66		職員は生き活きと働けている	○		①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
67		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
68		職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○		①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない	